

	西グリーンランド	ラブラドル	ニューファンドランド	ノバ・スコシア	ニューイングランド	不明
52	294	61	328	132	14	188
58	242	128	352	159	11	13
54	302	22	472	149	12	12
55	265	26	429	159	12	10
56	321	34	390	198	13	9
57	269	32	449	188	13	7
58	320	40	294	214	16	—
69	234	60	425	213	16	5
60	243	188	471	218	14	—
61	345	265	461	212	18	3
62	451	255	389	219	26	—
63	406	216	466	212	30	—

年代に多く漁獲されてその後1916年頃までは極端に少なかった。この変化は水温の関係(1870—1917年低温化)に対応する。1920年水温急昇と共にタラ群が復活し、グリーンランド漁業は驚くべき拡大を示した。1863年国際共同調査で東グリーンランド沖のタラ産卵とタラ稚仔がアーミンゲル暖流(ガルフストリーム分枝)に運ばれて漂流を示した。

(宇田道隆)

10. 東部及中部太平洋の開発されたカツオ資源の起源説

(出所: B. J. Rothschild B.C.F. Sp, Sc, Rept,
Fisheries No 512, 1965 pp 1—20)

稚仔魚分布、生殖巣指数、魚体分布、標識放流再捕魚3尾(ローワーカリフォルニア放流、1961年9月の分が21ヶ月後1962年6月77cm大、ハワイで再捕、同年4月放流のが28ヶ月後1962年8月78cm大でハワイ再捕、1961年12月放流のが16ヶ月後クリスマス島で1963年4月70cm大再捕)、漁獲予報、血精学的研究を総合してカツオ資源の仮説をたてた。中部太平洋の赤道水域のが東部太平洋のカツオ資源添加の大部分に貢献する。ハワイ漁獲の大部分は赤道帯水域に起源する。カツオの漁獲予察を論じ、年級強度現象がハワイの水揚に影響していることをのべた。これまでとれている太平洋のカツオの起源と移動についてはもつと資料、実証を集める必要がある。(中部太平洋はハワイ水域、マ

ークサス水域、赤道水域に3分した。)

(宇田道隆)

11. アラビア海のソマリー沿海の大量斃死魚

(出所: P. Foxton: A mass Fish Mortality
on the Somali Coast
; Deep-Sea Res 1965 Vol. 12 17-19)

1964年8月7-21日、8月28日-9月7日英国調査船 Discovery号は国際インド洋調査作業中大量斃死魚及びイカ類遺骸を発見した。特にRas Maberの南の近岸水域に集中していてあと少数ばらばらと広域に南はRas El Cheil(7°55'N: 49°55'E)北は Guardafui 岬の方からアデン湾まで分布していた。魚種は75%までPorcupine Fish(バラフグ類)のCyclichthys echinatus(Diodontidae族)で、次が多いのはTriggerfish(カワハギ類)のOdonus nigerおよびAbalistes stellaris(Balistidae族)であつた。どれも普通の熱帯沿岸魚で産業的重要魚種は見られなかつた。

斃死原因は冷水湧昇のためとみられ、沿岸で最低13.2℃、沖合22℃以上。南東季節風の盛期でソマリー海流、北上流強く(6-7ノット)、沖合に向つて発散する沿岸で起つた。

(宇田道隆)

12. 海洋工学の生物資源収獲への応用

(出所: D.L. Alverson & E.A. Schaefers
Transaction of Ocean Science
& Ocean Engineering Vol. 1 1965)

色々な栄養水準での潜在魚類生産量の推算がなされているが、ある一定栄養水準に対する最大潜在生物学的生産量が同時代の漁具で推出されるとは思えない。大洋生産を最大にするにはこれまでの自然任せでなく、人為的に外洋の魚を集める手段を開発しなければならない。もつと能率的な漁具の開発は魚の行動に関する生物学的知識に結びついた機械技術を必要とする。大戦後より近代的で効果的な漁具漁法の開発に一層関心を増し、特に欧州アジアにみられ、旧来の漁業システムを一変さすほどの成果を見せたものもある。世界の膨脹する人口の食糧要求増加に見合う動物蛋白の必要が論議的となり、多くの指導的政治家及び水産学者は海洋蛋白資源に注目した。ざつと世界の魚貝類生産増加をみると、1900年約400万トン、1930年1000万トン、1950年ごろ2000万トン台で、1960年ごろ4000万トンぐらゐと倍増を続けており、将来必要な蛋白食糧の大きな部分を大洋が受けもち得るとの信念を支持させる。魚貝生産の年増